

ステークホルダーエンゲージメント

● 附属図書館の取組み



附属図書館
ブックリユース市の開催

学生、教職員から不要になった図書の提供を受けて附属図書館に展示し、希望者に自由にお持ち帰りいただき再利用を図る企画で、毎年春と秋を中心に各館で実施しています。2018年度は、のべ5,500冊の図書を展示し、多くが再利用されました。

うちわとブランケットの館内貸出サービス

附属図書館では、地球温暖化防止と省エネルギーを推進しています。省エネしながら少しでも快適に過ごしていただくため、うちわ(夏季のみ)とブランケットの館内貸出サービスを行い、利用者から好評を得ています。



「しまんと新聞ばっぐをつくろう」
ワークショップの開催

古新聞でECOバッグを作るワークショップを自然科学系図書館 国際交流スタジオで開催しました。留学生を含む10名が、インストラクターの説明や手助けを受けながらA4サイズの本や資料が入るサイズのバッグ作りに挑戦しました。



● SDGsで広がる能登学舎のなかまの環



里山里海に囲まれた金沢大学能登学舎

珠洲市は内閣府により2018年に全国29か所の「SDGs未来都市」のひとつとして選定されました。その中核として、能登学舎のなかに「能登SDGsラボ」が開設されました。奥能登の豊かな自然環境や伝統文化を生かしつつ、それを経済発展につなげていくことを目指してラボは活動を始めています。

金沢大学では
様々な環境活動を通して、
地球と暮らしを守るための
取組みにチャレンジしています。

金沢大学
環境報告書2019
ダイジェスト版

Environmental Management Report 2019,
Kanazawa University

報告対象期間：2018年度（2018年4月～2019年3月）

金沢大学環境方針

【基本理念】

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置づけをもって、グローバル社会をリードする人材の育成と世界に通用する研究拠点の形成を目標に定め、＜先魁・共存・創造＞というコンセプトのもと、不断に改革に取り組むこととしています。

この理念と目標に基づき、教育、研究、診療、社会貢献等あらゆる大学の活動において、国立大学法人としての社会的責務を自覚し、以下の基本方針の下、人間と自然とが調和・共生する持続可能な社会の構築を目指します。

【基本方針】

1. 環境に関する先進的教育を継続的に推進し、持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成に努めます。
2. 環境技術、環境計測、環境政策、環境医学、生物多様性など、幅広い分野において世界的な視野に立ちながら地域の特性を生かした環境に関する研究を推進します。
3. 本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・解析するとともに、環境負荷の低減のため、資源・エネルギーの使用量削減、温室効果ガスの削減に積極的に取り組みます。
4. 化学物質の安全かつ適正な管理、廃棄物の適正処理と再利用・再資源化により、環境負荷の低減に努めます。
5. 環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発に努めます。
6. 本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を遵守するとともに、本学の全ての構成員が協力し、継続的な環境マネジメントシステムを実施します。

2014年9月1日 金沢大学長

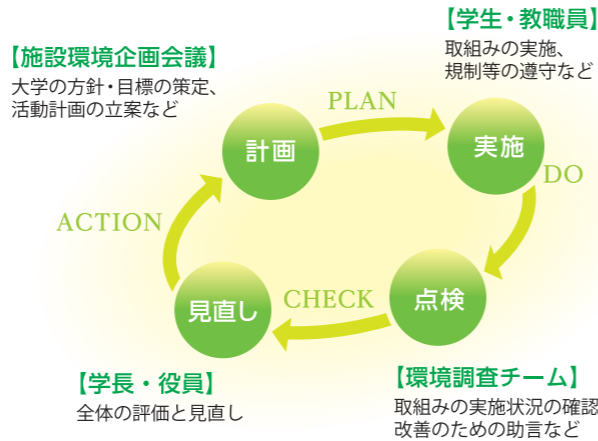
山崎光悦

「金沢大学環境報告書2019」の本編は金沢大学Webサイトで公開しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kankyuu/torikumi/report/2019.pdf

【金沢大学環境マネジメントシステム】

(2018年4月1日現在)

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。



金沢大学環境報告書2019

【ダイジェスト版】2019年10月発行

報告対象期間：2018年度(2018年4月～2019年3月)
発行：金沢大学

お問合せ先：金沢大学 施設部 施設企画課
〒920-1192 金沢市角間町(自然科学5号館1階)
TEL.076-264-6180 FAX.076-234-4030
e-mail : faunei@adm.kanazawa-u.ac.jp

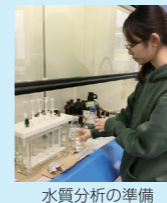
クローズアップ
Close Up! 学生等が世界や地域でフレッシュな力を発揮して取り組む3つの環境活動を紹介します!

環境に関する教育と研究

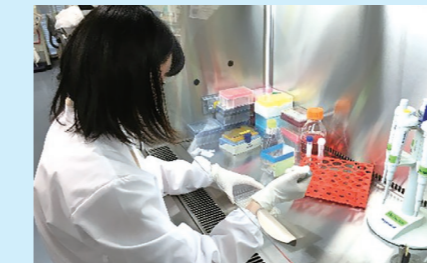
下水が飲み水に!?

水の循環利用における安全性管理指標の開発

世界各地で、高度な処理を施した下水を飲用水源として再利用する「下水飲用再利用」が行われています。複数の下水処理場から多数の水試料を収集し、水質分析・細胞毒性実験・統計解析を駆使して、化学物質の測定だけでは評価できない毒性の原因物質を探索しています。



水質分析の準備



細胞毒性試験の様子

ステークホルダーエンゲージメント

「金大生による“調べ学習”教室」の開催



県内外から小学生とその保護者が参加し、「環境」をテーマとした“調べ学習”に取組むことで、環境問題に対する理解を深めてもらうことを目的として、「金大生による“調べ学習”教室」を開催しました。



“調べ学習”ポスター

重要な環境課題

角間里山本部の取組み

里山ゾーンは、他大学にはないユニークな環境資産であり、本学では大学の教育研究だけでなく地域住民の利用にも開放しています。里山ゾーンを活かした「21世紀型の里山キャンパス」を作り出すために、環境整備や、里山ゾーンを利用した講義・実習など、様々な取組みを行いました。



里山ゾーンでの公開講座

環境に関する教育と研究

● 現代的教養コアとしての環境学

地球環境問題の現状や将来予測、それに伴って起こる社会経済構造の変化をグローバルな視点で理解し、ローカルな視点で「持続可能な社会」の実現に向けて、環境リテラシーの高い人材を幅広く育成することをめざし、GS科目「環境学とESD」や導入科目「大学・社会生活論」等の環境教育を推進しています。



「環境学とESD」の授業の様子



● 恵まれた自然環境の中で ～附属小学校～

児童会の取り組み

全校児童にエコキャップ、ブルタブ集めをよびかけ、エコキャップは合計149,496個集まりポリオワクチン186人分になりました。



集まったペットボトルキャップ

リサイクルセンター見学

4年生は社会科で、金沢市の環境エネルギーセンターやリサイクルセンターを見学し、ごみのリサイクルの学習を行いました。



リサイクルセンターにて

環境ISO認定校

2017年から「いしかわ学校版環境ISO認定校」になっています。毎日の生活でもごみの分別、省エネ、節電に取り組んでいます。



● 北陸グリーンインフラ研究会

グリーンライフとは自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画です。シンポジウムなどを通してグリーンライフの視点に基づいて、金沢らしい持続可能なまちづくりの実践的研究に取り組んでいきたい。

● 東北への思い

岩手県陸前高田市での活動も、2019年2月に計40回を数えました。ともに東北へ足を運んだ学生は1,000人を越えました。中には活動のあと自主的に足を運んだ人もおり、支援の輪は広がり続けています。



夏祭りの様子



大学祭での発表の様子

● 電気使用量の見える化がもたらす影響の社会実験（経済学類・藤澤ゼミの取り組み）

電気使用量の見える化とは、北陸電力(株)が提供する無料のサービス「ほくリンク」のことで、登録すれば各自のPCやスマホから、自宅の電気使用量がグラフ化して表示されるものです。学生を対象に説明会をおこない、電気使用量に関するデータの収集をおこないました。データ回収時にアンケート調査をおこない、これらのデータを用いて、計量経済学的手法(重回帰分析)に基づき分析しました。



WEST論文研究発表会

● 石川県志賀町における生活習慣病予防に向けた取り組み

石川県志賀町と共同で生活習慣病の早期発見のためのバイオマーカーの探索とともに、生活習慣病の予防を目的として、志賀町の住民を対象としたスーパー予防医学検診を行いました。



石川県志賀町のスーパー予防医学検診会場

● インドネシアにおける寄生虫対策支援

寄生虫調査・制圧を目的とした海外フィールドワークを実施してきました。スラウェシ島マカッサルのハサヌディン大学医学部および近隣のブルクンバ助産婦アカデミーを訪問し報告会を実施しました。参加したインドネシア側の医学生、大学院生、教員は、日本の寄生虫病制圧の経験に対する関心が高く、熱心な質疑応答がかわされました。



ハサヌディン大学医学部における報告会



ブルクンバ助産婦アカデミー

● 能登半島で実施した統合環境型サマースクール

能登半島の環日本海域環境研究センターの調査地域を中心に留学生を対象にしたサマースクールを初めて実施しました。受講生からは、異なる環境科学の分野を学び体験するとてもよい機会だった、などのコメントが寄せられました。



磯場での生物調査風景

● キャンパスで楽しむ里山の四季

里山サークルラクーンは、角間の里でのタケノコ掘りや、アメリカのプリンストン大学をはじめとした留学生達との日本の里山体験、秋に行われる「里山まつり」での竹細工の店出など、キャンパス内で里山の四季を楽しめる活動を行いました。



「里山まつり」での竹細工の店出



6月に行われた[SATOYAMA体験]

バリューチェーンマネジメント

● 金沢大学生協の環境負荷軽減活動～学内で手軽にできるエコ活動～

間伐材使用の割り箸「樹恩割り箸」の活用

NPO法人「JUON NETWORK」と協力し、国産の間伐材で作られた「樹恩(JUON)割り箸」の普及に取り組んでいます。



樹恩(JUON)割り箸

リサイクル弁当容器「リ・リパック」の回収推進

手作り弁当の容器には、「リ・リパック」というリサイクルトレーを使用しています。容器を回収BOXで回収すると10円を返金する代わりに1枚10円分の募金として寄付しています。



「リ・リパック」トレー回収BOX

● 「金沢大学キャンパス環境整備の会」2018年度ボランティア活動

きれいで清々しい環境の中で教育・研究に動んでもらいたいとの思いから、ボランティア活動、校内の除草を中心とした環境美化活動を行いました。



● グリーン購入の推進

金沢大学では、「環境物品等の調達の推進等に関する法律」に沿って、毎年度方針を定め、環境物品等の調達を推進しています。2019年度も同様の方針を定め、目標値の達成、循環利用等の推進に努めていきます。

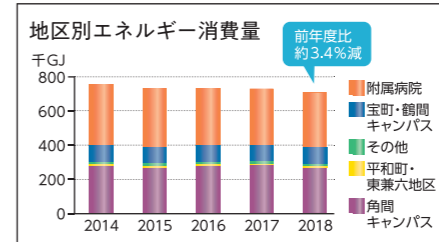
重要な環境課題

● 重要な環境課題の特定について

今年度の重要な環境課題は、2014年度の環境マネジメント委員会で議論し、施設環境委員会、役員会等で了承され、その後毎年のように見直し確認を行ってきた環境方針の基本方針に記載されている項目にしました。

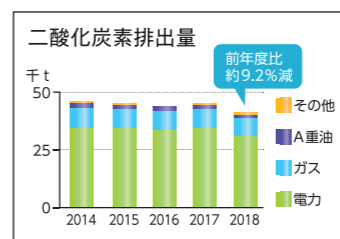
● エネルギー消費状況

2018年度のエネルギー消費量は、約706千GJであり、2017年度と比較して、約3.4%減少しました。省エネ活動、省エネ対策工事等を行った結果と2018年度の冬は暖冬によりエネルギー消費が減少したものと考えられます。



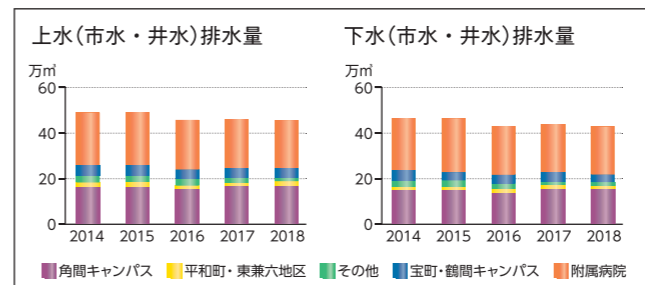
● 温室効果ガスの排出状況

2018年度の二酸化炭素(CO₂)の排出量は、4.1万トンでした。2017年度より約9.2%減少しました。この二酸化炭素の排出量の減少の主な要因は、エネルギー使用量の減少と電気に係る地域電力会社の二酸化炭素排出係数が減少したためと考えられます。



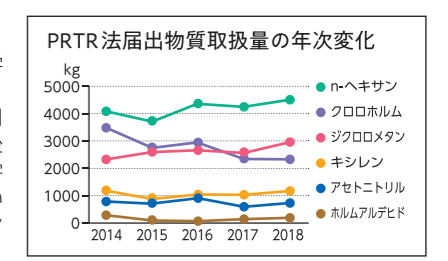
● 水資源の利用状況

金沢大学における年間水使用量は、およそ46万m³で、2017年度比で約0.8%減少しました。ここ数年間は、日頃の節水活動の成果が、ほぼ横ばいから微減傾向になっています。今後も自動水洗式への設備改修や日頃の節水をさらに徹底していきます。



● 化学物質管理

金沢大学内で使用する化学物質の適正な管理と使用・排出状況の把握の向上を目的とし、化学物質の購入後から廃棄までを一貫して学内LANとパソコンを用いて管理する化学物質管理システムを導入しています。

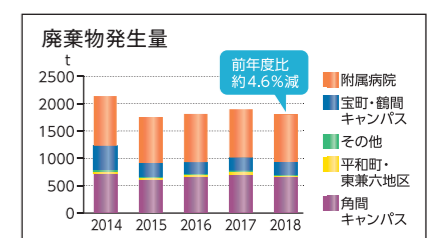


● 大気汚染物質の排出状況

金沢大学では、主に冷暖房用としてA重油ボイラー、ガスボイラー、ガスタービン・コージェネ設備、ガス発電機等が稼働しています。ばいじん等の大気排出濃度はいずれも法令の規制値を大幅に下回っており、適正な運転・管理が行われています。

● 廃棄物の排出と再資源化(リサイクル)状況

2018年度の廃棄物の発生量は、1,783トンであり、2017年度に比べ約4.6%減少しました。リサイクル率向上のため、廃棄物の分別表を周知徹底し、回収率向上にさらに努力します。



学生活動